

三井のリフォーム 住生活研究所長 西田 恭子

鹿兒島視察の雑感

二〇一八年一月からのNHK大河ドラマは、鹿兒島を舞台にした「西郷(せご)どん」に決まった。原作者は林真理子さんと、主人公の西郷どんは私にとって好感度の高い鈴木亮平さんである。

先ごろ建築家協会の所属している部会で訪れたのがその鹿兒島で、何ともラッキーな気分だったのだが観光的な要素は含まれず、南薩摩半島と大隅半島の集落を視察してまわった。

視察地と決まってきたきっかけは、第一線で建築設計をし、再生部会をも率いていた東京の方が、鹿兒島大学教授として赴任されたからだ。大学でも再生デザインの研究・歴史的意匠分野の近現代建築や伝統的な木造建築の町並である麓集落のフィールド調査などを、学生とともにされている。

今回、知覧の武家屋敷群はもちろんだが、東シナ海に面した秋目や加世田、高山等の麓集落も訪れた。知覧は重要伝統的建造物群保存地区に認定されて三五年が経つ。藩政の要職に就いていた武家屋敷であり独特の文化風土が育まれ、すぐ

れた国指定名勝庭園なども見学でき、美しく風格ある町並だ。左右の武家屋敷は茅葺屋根もきれいに葺き変えられ、知覧型二つ家のオモテ座敷も整えられている。その屋敷をほさむ本馬場通りの石垣と生垣が美しいのだが、この生垣を害虫が壊している。今まで越冬できなかった害虫が冬を越し、繁殖しているとか。何度もシロアリ被害の家を見てきた私は、ここでも地球温暖化を実感した。

一方天然の良港であった秋目は、昔、子供達に通っていた趣ある小学校も廃校となり、今はスクールバスで山越えだ。昔こは遣唐使船で鑑真和尚が上陸した地であり、浜美枝さんがボンドガールで出演した「007は二度死ぬ」のロケ地でもある。海も森も素晴らしい。浜美枝さんの泳ぐ姿と相まってここをロケ地にと考えた監督に納得する。

石垣や植生など昔の面影が今も残り、伊能忠敬が泊まったという網元の家や旧漢方医の邸宅、洋館を思わせるものもある中で、朽ちていく空き家も多く存在する。台風の通り道にさらさ

れる建物の衰退は住民の力では難しく保存地区への動きもあるものの、なかなか認定まで進まずあきらめに近い心境を語る方がいた。指定されたか、されないかの違いを目の当たりにした視察となった。

視察とはいえ、各地での食事は美味しかった。秋目で漁師さんが朝とった魚の美味しかったこと！ もともと魚好きでお刺身には目がない私は、小ぶりで濃厚なうに、はまち、いか等々、味わって幸せであった。

また大隅半島では黒豚のソーセージとハムを、小牧場のテラスでワイン片手にいただいた。四人の子供をドイツなどで修業させ称号を取らせたらうえ、皆地元に戻し、地産地消での事業化を行っていることに感心した。次世代が地元で夢を持ち輝いている姿が何ともまぶしい。

日頃、長寿命化住宅にすることの難しさも感じているが、再生という地域の問題を研究課題とし、自治体などへの提案をも念頭においた教授の教育姿勢に感銘を覚える視察旅行となった。



西田恭子のプロフィール＝一級建築士。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」所長。リフォーム設計の経験を活かし、新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。インテリア学会会員。日本建築家協会正会員。